

## 越谷市内を流れる元荒川は元・利根川だった

秦野 秀明

### 一 元・利根川

越谷市内を流れる「元荒川」(流路跡を含む)は、古代より中世前半までは「利根川」であった。

故に、越谷市内においては、「元荒川(元・利根川)」の流路(流路跡)を境に、下総国と武蔵国が画されていたのであり、その国境であった期間は「元荒川」が「利根川」ではなくなっていた近世初頭まで続いた(1)。しかし「元・荒川」という名称のため、「元・利根川」であったという事実は、一般的にはあまり知られていない。

今回、関東地方では「利根川」流域だけに存在する「河畔砂丘」を題材として、越谷市内を流れる「元荒川」が「元・利根川」であったという事実を紹介するが、紙面に限りがあるため、『中川水系 I 総論 II 自然』第一章第一節四(2)より引用した基本的な事柄のみの記述を行うこととする。

### 二 河畔砂丘

「河畔砂丘」とは、自然堤防性の河川堆積物とその上に重なる風成砂によって作られている。この河川堆積物の最上部は後

背湿地面より数mの比高をもっているため、その上を覆う風成砂が自然堤防の高まりをさらに大きくし、小高い「河畔砂丘」ができていく。時には風成砂が薄く、自然堤防性の地形が主体となっている場合もある(3)。

多田文男氏(一九四七)は、「河畔砂丘」の形成に関して、利根川中流部は砂の供給がよく、砂の移動が容易で、蛇行の袂状(けつじょう)部の風下側(東側あるいは南側)に出来やすいことを明らかにした(4)。

「河畔砂丘」の分布(図1・図2)は、

- ① 会の(あいの)川(羽生市上川俣―栗橋町高柳まで)
- ② 合の(あいの)川(北川辺町飯積)
- ③ 浅間(あさま)川、大落古利根川(大和町佐波―栗橋町高柳―鷲宮町―杉戸町―春日部市―松伏町上赤岩まで)
- ④ 古隅田川、古隅田川の合流点から下流の元荒川(春日部市浜川戸―岩槻区長宮―越谷市大成町まで)

であり、特徴的なことはかつての「利根川」と考えられる流路(流路跡)沿いだけに発達していることである(5)。

「利根川」上流部においては、六世紀初頭以降に四度に及ぶ大噴火があった(6)。そのため、その火山性の砂の粒度組成及び鉱物組成(7)が、「河畔砂丘」を形成する決め手になったといえる。故に、「利根川」と「荒川」の違いを、上流部に活火山が存在するか否かで説明することもできるのである。

### 三 北越谷地区の元・利根川の流路跡

「写真1」は、昭和二二年(一九四七)の越谷市北越谷地区の



空中写真(8)である。区画整理事業が行われる以前のため、「元荒川」の流路跡を、大房稻荷神社付近を分流点に、少なくとも五筋は読み取ることが出来る。

北越谷地区には、浄光寺を乗せる「河畔砂丘」の列と、北越谷小学校の東側の住宅地を乗せる「河畔砂丘」の列が併せて二列存在し、「北越谷河畔砂丘」と命名されている(9)。「河畔砂丘」は「利根川」の流路の東側及び南側に形成される(4)ので、現在ある北越谷小学校の位置より東側に読み取った数筋の流路跡のすべては、「元・利根川」であったということが出来る。

故に、今はなき大沢浅間神社の小丘や「大沢七つ池」(10)が形成された時期も、「元・利根川」の頃であり、長元七年(一〇三四)に勧請されたという大沢浅間神社の伝承(11)も、流路跡の時期を推定する材料になる可能性がある。

昭和四七年(一九七二)に、北越谷地区の対岸である南荻島地区の「元荒川」の川底から、康正三年(一四五七)より明応八年(一四九九)に至る板碑群が引き上げられた(12)。

北越谷地区における「元・利根川」の流路は、「河畔砂丘」の形成(4)の過程により東から西へ移動している。それゆえ、最後に板碑の建てられた明応八年(一四九九)以降に、現在の「元荒川」の位置に流路が定まり、板碑群が川底に没したのである。

#### 四 照光院の氷川社

『大澤町古馬宮(こまばこ)』(13)には次の記述がある。

六十一 氷川前

一 古絵図ニ氷川前といふ(は)御蔵屋敷の西の方に向ひ川前と記しあり、夫より辻耕地の境辺をいふなり、委しく(は)古絵図ニて知へし、

筆者は当初、この記述の「氷川」は「氷川神社」とは無関係であろうと推定していたが、『新編武蔵風土記稿』の照光院の項(14)に「氷川社」があるのを見出し、照光院のご住職に確認したところ、この「氷川社」は明治以降に大沢香取神社に合祀され、現在は照光院の境内には存在しないものの、この地に確かに「氷川神社」が存在していたという事実が確認できた。

『大澤町古馬宮』により、照光院の西南西付近に「御蔵屋敷」(15)、照光院の東北東付近には「天神前小橋」(16)が存在したことが分かる。「北越谷河畔砂丘」(9)の位置より推定すれば、下総国と武蔵国の国境であった「元・利根川」が、「天神前小橋」(16)付近を流れ、その後創建された照光院はその右岸であったということが出来る。

故に、古絵図に記される「氷川前」(「古絵図1」)も、「元・利根川」の右岸であり武蔵国埼玉郡の地名であった可能性が高い。しかし何ゆえ、「埼玉郡」の鎮守であった「久伊豆神社」ではなく、「足立郡」以西の鎮守であった「氷川神社」(17)が祀られていたのかは不明である。



古絵図1 氷川前  
『大澤町古馬宮』  
六十一 氷川前 を使用



- (1) 新郷 (2) 岩瀬 (3) 砂山 (4) 須影 (5) 志多見 (6) 南篠崎 (7) 飯積 (8) 原道
- (9) 高柳 (10) 西大輪 (11) 青毛 (12) 高野 (13) 小淵 (14) 藤塚 (15) 松伏 (16) 上赤岩
- (17) 浜川戸 (18) 長宮 (19) 袋山 (20) 大林 (21) 北越谷 (22) 東越谷 (23) 大相模

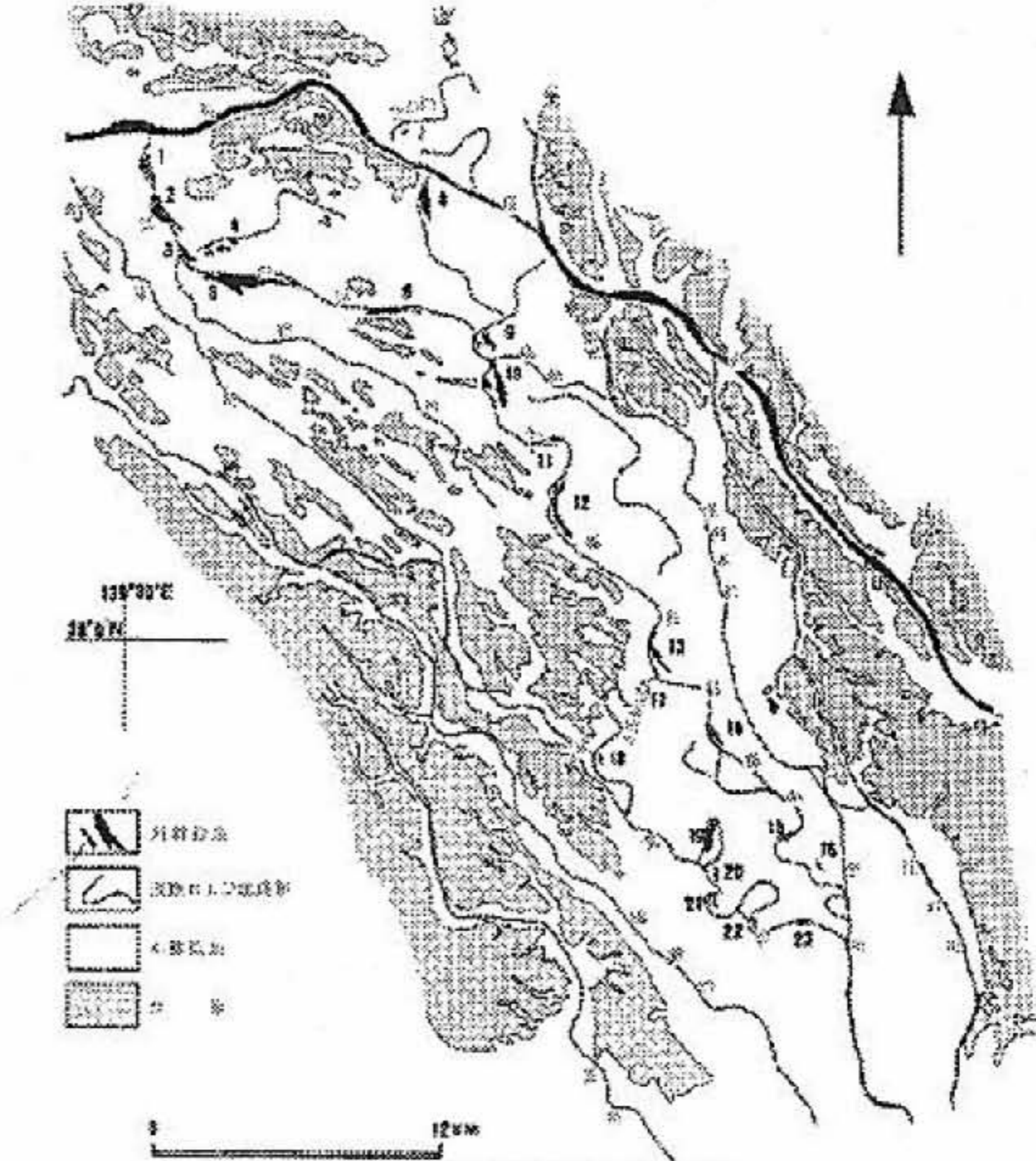


図1 河畔砂丘の分布図  
 平社定夫・佐藤和平 1993 『中川水系 I 総論・II 自然』  
 第一章第一節四 埼玉県 84頁 を使用

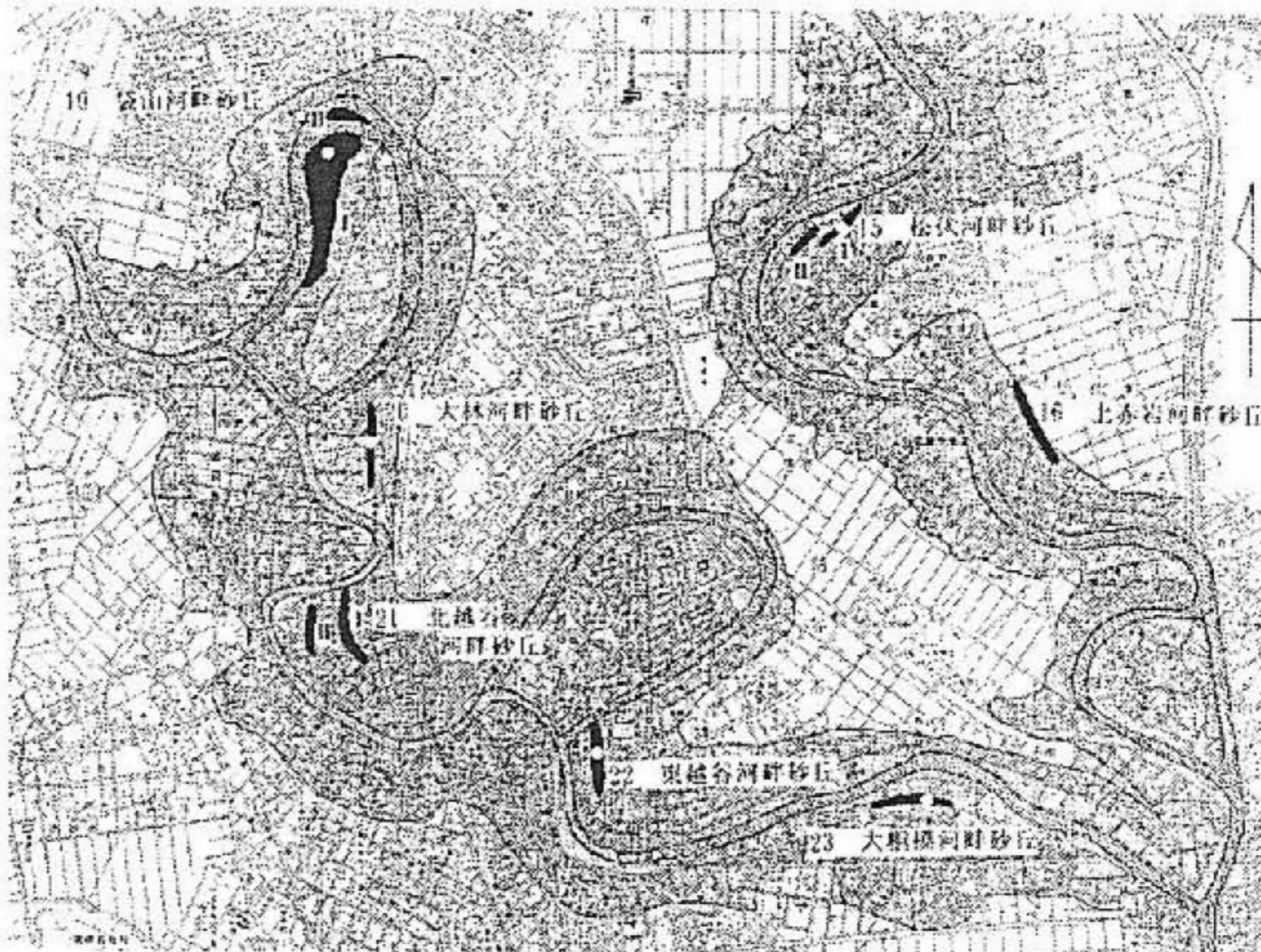


図2 越谷市と松伏町の河畔砂丘と周辺の地形  
 平社定夫・佐藤和平 1993 『中川水系 I 総論・II 自然』  
 第一章第一節四 埼玉県 94頁 を使用



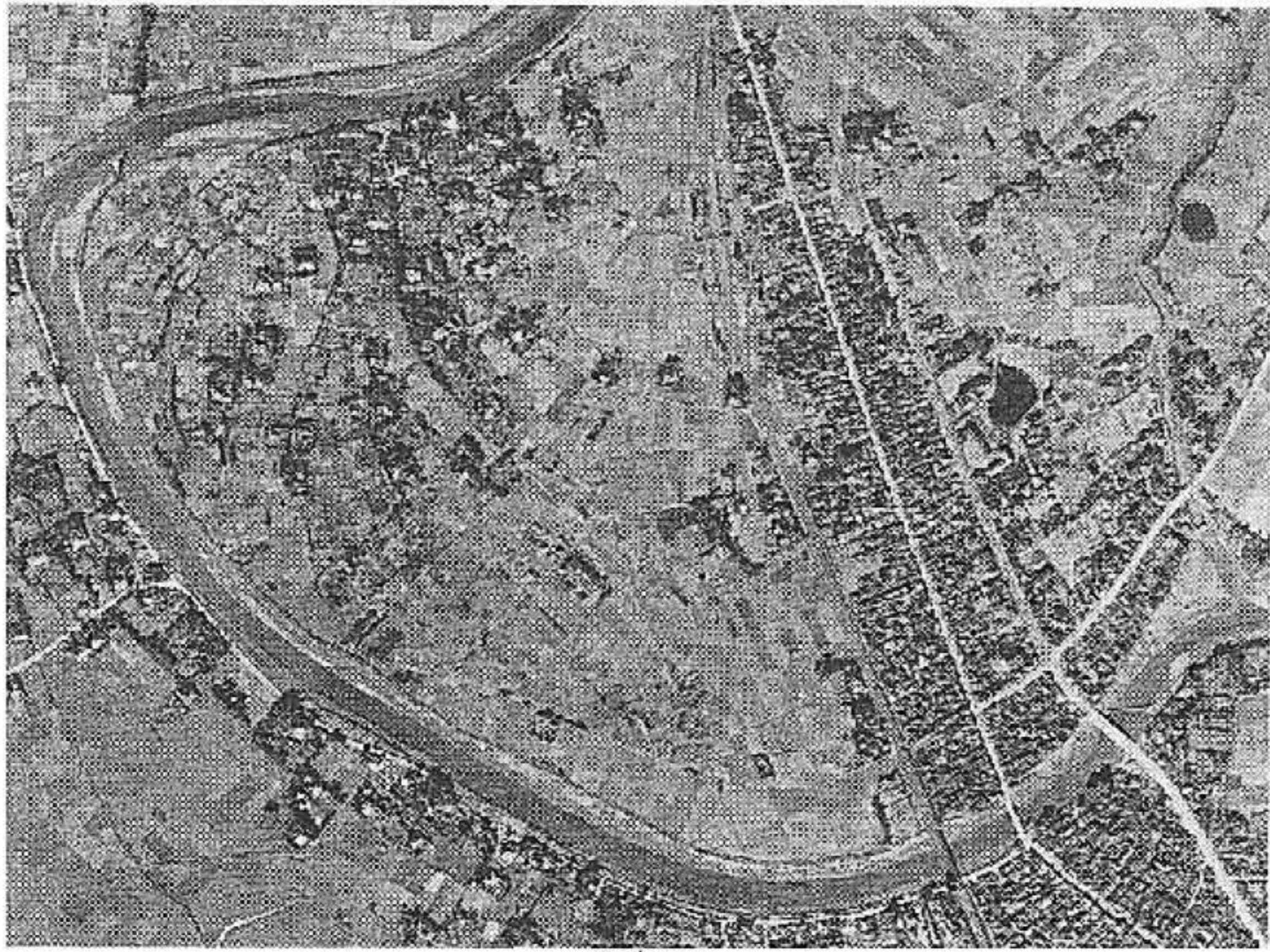


写真1

国土地理院 空中写真(1947・10・23撮影)  
129番を加工して使用

註

(1) 代表的なものとして

本間清利 一九七八 『利根川』 埼玉新聞社

※「利根川」初出は「住田河」『類聚三代格』承和二年(八三五)六月二十九日

(2) 平社定夫・佐藤和平 一九九三

『中川水系 I 総論・II 自然』 第一章第一節四 埼玉県 八二―一八頁

(3) 前掲書註(2) 一一七頁

(4) 前掲書註(2) 八二頁

(5) 前掲書註(2) 八五頁

(6) 早田勉 一九八八 『関東・甲信越の火山I』 築地書館 七四―九二頁・

高橋正樹 一九八八 『関東・甲信越の火山I』 築地書館 九三―一一八頁

(7) 前掲書註(2) 九七―一一七頁

(8) 国土交通省 国土地理院 空中写真(一九四七・一〇・二三撮影) 一一九番

(9) 前掲書註(2) 九三頁 「北越谷河畔砂丘」

大林河畔砂丘の一つ南側の蛇行部、越谷市北越谷に二列の河畔砂丘が発達する。いずれもゆるく湾曲した平面形態を示し、北から南へのびる。

Iは浄光寺をのせ長さ五八〇m、幅七五mであり、IIは北越谷小学校の東の住宅地をのせ長さ三五〇m、幅五〇mである。低地との比高は、二m前後である。

(10) 高崎力 二〇〇七 「大沢の七ツ池」 『古志賀谷』 一四号 八二・八四頁

(11) 『荒井家文書』(越谷市大沢)

(12) 加藤幸 一九八八 「元荒川(南荻島)出土の板碑群」(未公刊)

(13) 江澤昭融 一八四一 『大澤町古馬宮』(原本三四頁)

(14) 『新編武蔵風土記稿』卷之二百三 埼玉郡之五 越ヶ谷領

(15) 前掲書註(13) (原本七二頁)

(16) 前掲書註(13) (原本五一頁)

(17) 西角井正慶 一九六六 「祭祀園の問題」 『古代祭祀と文学』 中央公論社